

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお ・ げんき ・ あいさつ ～  
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子



もりフェスで末就園児にプレゼントする年少児手作りの花

開成町立開成幼稚園

## たいよう通信

第6号

発行日：令和7年9月29日（月）

発行者：杉山 孝史

### もいフェスに向かって

9月23日は秋分の日。太陽が真東から昇り真西に沈むことで、昼と夜の長さがほぼ同じになる自然の節目の日です。「暑さ寒さも彼岸まで」のことわざのとおり、夏の厳しい暑さもようやく落ち着き、心地よい風が季節の移ろいを感じさせてくれます。



さて、幼稚園では10月17日（金）に予定している運動会「げんきもりもりフェスティバル」に向けて、子どもたちの気持ち少しずつ高まっています。

また、学年の練習や使用する用具類の準備なども始まっています。子どもたちが安心して練習に参加し、当日を元気に迎えられるよう、「体調の管理」「持ち物の準備」「衣類の洗濯や補修」などのご対応をお願いします。当日は、皆さまで幼稚園へお越しください。お待ちしております。

※写真は年中児ダンス練習の様子

### 一番大切な宝物、それは・・・



大きな地震が発生し、給食室の回転窯から火が出たという想定で9月11日（木）、地震・火災避難訓練を行いました。今回も子どもたちは、担任の話をしっかり聞いて、「お・か・し・も」の約束を守って落ち着いて避難することができました。さすが開成幼稚園児「すてきさん」です。

子どもたちには、「地震が来たらダンゴムシ、火事になったらすぐ逃げろ」という合言葉を絵で示しながら伝えました。そして、いろいろある宝物の中で、一番大切な宝物が「命」であることも話しました。今回の訓練は、いざという時に備え、命を守る行動を身につけるための貴重な機会となりました。今後も、日頃から園全体で防災への意識を高めてまいります。

### 劇団レンゲ座さんをお呼びして

年長学年の8月誕生会を9月4日（木）、ゆうぎ室で行いました。8月に誕生日を迎え満6歳になった子は合わせて4人。個人写真と手形、担任からの祝いメッセージが添えられたカードが一人一人にプレゼントされました。



誕生会では、毎回お楽しみの出し物が用意されますが、この日のそれは、レンゲ座のお二人による歌遊びやパネルシアターでした。

チャミさんのアコーディオンに乗せて繰り広げられるゲンゴロウさん（左端）のパフォーマンスについつい見入ってしまいました。ほのぼのとした素敵な誕生日プレゼントになりました。レンゲ座の皆さん、本当にありがとうございました。

### 年少親子で遊ぼう DAY

年少の子どもたちが入園してから、早くも5か月あまりが経ちました。最初は慣れない園生活に戸惑う様子も見られましたが、日を追うごとに笑顔が増え、今では毎日元気いっぱいに遊んでいます。そんな子どもたちの成長した姿をご覧いただき、親子で楽しい時間を過ごしていただくために、9月12日（金）に年少保育参観『親子で遊ぼう DAY』を開催しました。



虹のトンネル作り、虹色の魚釣り、花の風車作りに親子で一緒に取り組みました。「子どもの様子や他の子との関わりが見られてよかった」「親子で一緒に楽しい時間を過ごすことができた」など、参加された皆さんから嬉しい声がたくさん寄せられました。子どもたちの成長を感じながら、保護者の皆さんと一緒に笑顔あふれるひとときを過ごせたことを、私たち職員もとても嬉しく思っています。

ご参加大変ありがとうございました。

# にこにこフェスティバル

開成幼稚園 PTA 主催「にこにこフェスティバル」が9月27日（土）、開成町福祉会館を会場に開催されました。あじさいちゃんの絵柄が入ったうちわ作り、おかしやスーパーボールすくいなどの遊びコーナーに子どもたちは大はしゃぎ。あじさいちゃんと一緒に開成マーチを踊ったり、円中連の皆さんに阿波踊りを見せていただいたりなど、家族そろって楽しい時間を過ごしました。計画から事前の準備・片付けまでご尽力くださった役員の皆さま、素敵なプレゼントありがとうございました。



## ☆ひだまり

### 僕は犬

▼私の家には15歳になる老犬がいます。

人間で言えばおよそ80歳になるそうです。少し前までは元気に散歩をしたり、ボールをくわえて駆け戻ったりしていました。しかし、近頃は白内障のため視力が衰え、歩くたびに柱や壁にぶつかるようになりました。トイレを教えることもほとんどなくなり、昼間はおむつをつけて過ごしています。そんな姿を見るたび、胸が締めつけられるような寂しさが込み上げてきます。

▼先日、偶然『もし、もう一度生きられるなら』というエッセイに出会いました。「僕は犬。生まれてすぐこの家に連れて来られた。お母さんのお乳を吸った記憶は数えるほどしかない。僕がこの家に来た時、君はまだ小さな子供だった。君は僕に興味津々だったね。僕のその頃の楽しみは、君のお母さんと君と一緒に散歩に行くことだったよ。君たちは僕に家族として、優しく接してくれたね。君は大きくなるに連れて、毎日がとても忙しそうだったね。君が僕に構ってくれる時間はだんだん少なくなっていったね。君が大人になった頃には、お母さんもお婆さんになって、お父さんはお爺さんになっていったね。僕ももちろん年をとる。だんだん楽しみな散歩に行くこともできなくなってきたよ。時が経ち、僕の身体は思うように動かなくなってきた。散歩にはもうずっと行っていない。今日は君が帰ってくる日だったね。君は帰ってくるかとすぐに涙目になりながら、僕の方に来てくれた。どうしたの？何か悲しいことでもあったのかな…僕は君の伸ばした手を精一杯の力を使って舐めてあげた。お父さんとお母さんも僕のをばにやってくれた。三人ともどうしたんだい？僕は精一杯の力を使って声を出した。三人は涙を流しながら僕の身体をさすってくれる。意識が遠くなっていく。僕は永い眠りについた。僕は犬。人の言葉はわからない。けれど気持ちはなんとなくわかる。僕は犬。人の言葉を話せない。けれど気持ちは表現できる。僕は犬。人の言葉を話したい。人の言葉を理解したい。もし、もう一度生きられるなら人として、君たちの家族として…同じ時間を生きたい。」《作者不詳・抜粋して引用》▼幼稚園ではウサギやカメ、金魚や虫などの生き物を飼っています。子どもたちは、毎日せっせと世話をしなが、生き物たちに語りかけられ合いを楽しんでいます。このことを通して、子どもたちは思いやりの心や命の尊さなどを自然と学んでいます。老犬との日々、そして偶然出会ったエッセイは、命のぬくもりとそこに宿る優しさを教えてくれています。

